

箱を減らして省力化！ 密播中苗で米作り

概要 Abstract

高密度に播種した中苗マット苗（密播中苗）は、移植後の生育や品質が慣行の中苗と同等で、必要苗箱数を30%以上削減できる。

密播中苗



左： 400mL/箱を播種

慣行中苗



右： 200mL/箱を播種

成果 Results

箱あたり播種量を2倍

(400mL/箱)

+ 植物成長調整剤

(ウニコナゾールP液剤)

+ 育苗追肥2倍 (4gN/箱)

育苗日数は30~35日です。

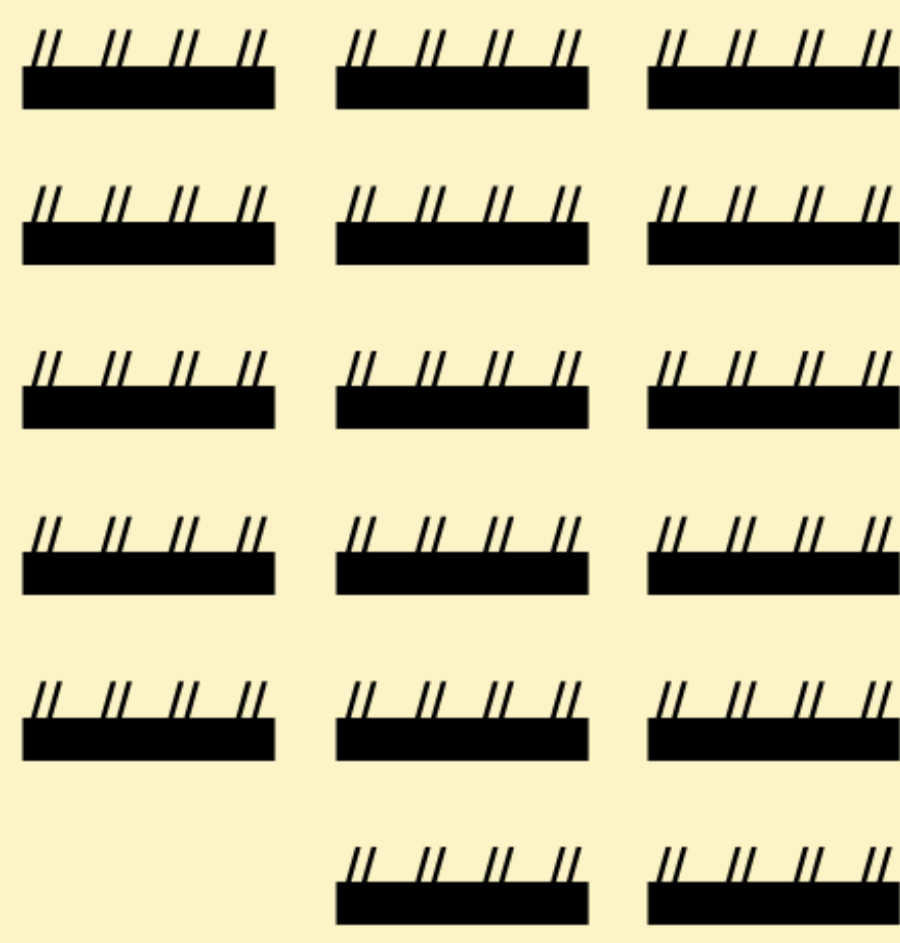
そして、田植え時に

かきとり量を減らします。

苗箱数18箱/10aに、
(25株/m²)

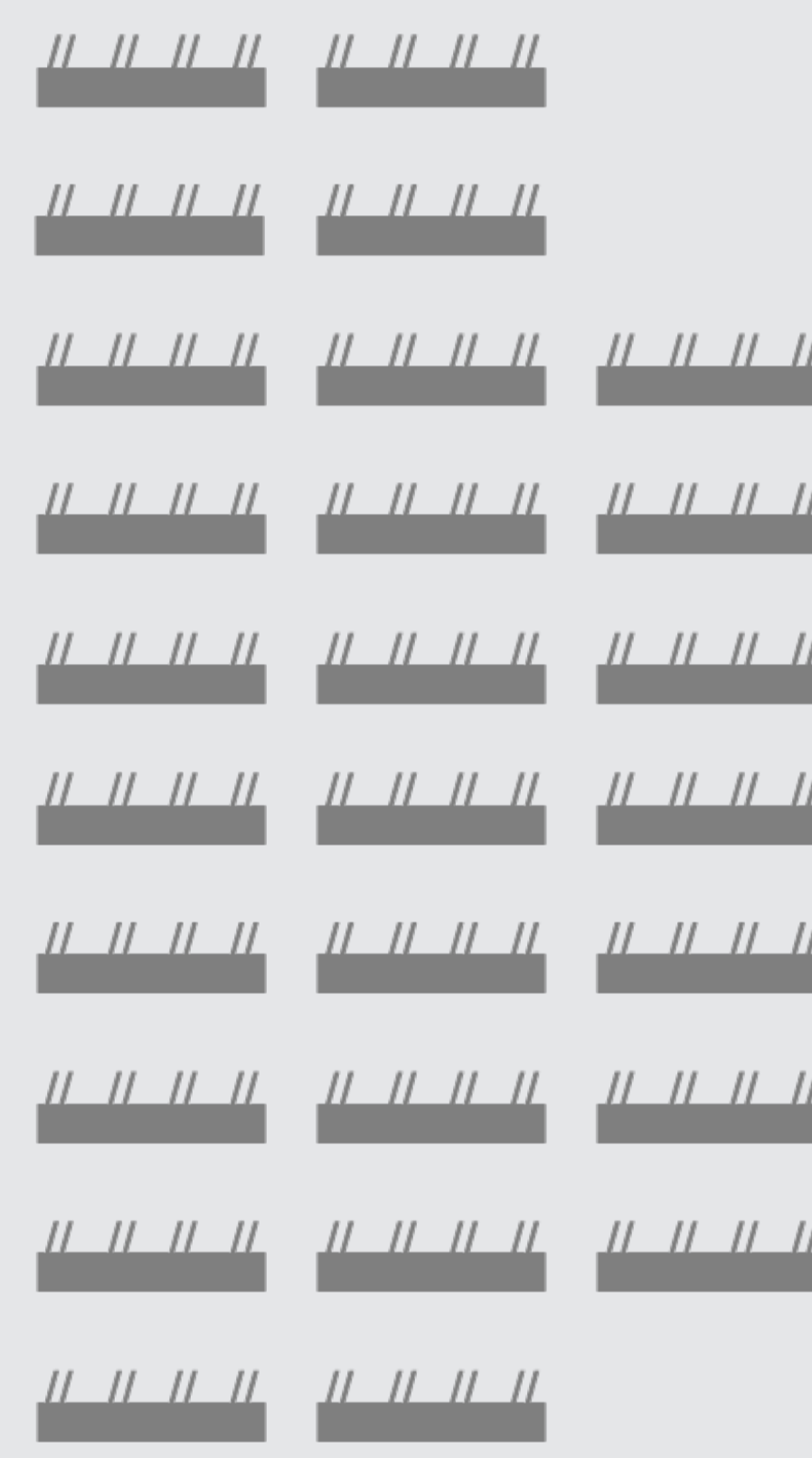
約 **2/3** へ

削減です。



28箱/10a

(25株/m²)



① 市販の農機具で

対応できる。

今お使いの中苗用の播種機、移植機が設定を変えるだけで、そのまま使えます。

追加の作業は、催芽前にウニコナゾールP液剤を浸漬処理すること、出芽後に覆土落としが必要になりやすいこと、の2点です。

② 苗箱数が削減できる。

移植機のかきとり量を減らして、使用箱数を削減します。

市販の田植え機で36%減の18箱/10a (25株/m²) に削減できました。

育苗に関する物財費は安くなると試算されました。

本技術は苗箱数の削減とコストや労力の軽減に役立ちます。

③ 苗質がやや劣るものの、

収量や品質は同等です。

苗の葉齢と乾物重がやや劣りますが、マット強度などは十分です。

移植後の生育や出穂期は慣行の中苗と同等でした。収量は慣行中苗との比で97~112 (平均102) でした。品質も同等でした。

↓ 詳しくは web で。



一般課題H31(H30年度)

「苗箱数削減のため・・・」へ

連絡先 Contact

中央農業試験場
生産研究部 水田農業グループ
0123-89-2001
central-agri@hro.or.jp

普及 Dissemination

- (1) 中苗マット苗移植栽培の苗箱数削減を図る際の参考にする。
- (2) 苗の徒長を抑制するため植物成長調整剤の使用を基本とし、さらに育苗管理は徒長に留意する。